

諫早市教育委員会議事録

令和4年第13回（11月定例）

令和4年第13回（11月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年11月15日（火）
15時30分～16時10分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8－2
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
- 4 欠席者 委 員 小野 靖彦
- 5 会議に出席した事務職員
教育次長 後田 一光
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 6 議題
議案第20号 諫早市立北諫早幼稚園の休園について

議事録署名人の指名

原田委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和4年第12回（10月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

教育委員会の11月の動きについて

まず新型コロナウイルスについて、4月から11月までの月別感染者数であるが、5月の小学校が152名、中学校38名から見ていくと、ピークは8月で860名と326名であった。

それから段々下火になり、10月が小学校106名と中学校16名、11月は小学校が37名、中学校が6名ということで、11月は10日までで締めているので、単純に3倍にすると小学校は100名ちょっと、中学校は18名となり10月に似かよっている感じになる。

今、伊木力小学校では教職員が罹患しており、罹っていない先生が2名なので、授業ができず学校閉鎖をしている。明後日木曜日まで3日間学校閉鎖し、金曜日から再開する。全国的にも第8波という言葉も出てきているので、油断ができないなという感じがしている。

ステージ1になり、学校行事はほぼ普通どおり実施されているようだ。日曜日に諫早小学校の創立150周年の行事があったが、そこでは子供たちだけではなく、保護者や自治会、歴代の校長、来賓等についても案内をされていて、間隔を取って座っていただい

て、感染対策も適切にされていた。

そのように、できるだけ学校行事を再開し、子供たちにも元気を出させていくようにと、私たちも校長会や教頭会で伝えている。もちろん検温やマスクの着用、消毒、密を避けるなどの感染症対策は続けていかなければいけない。

2 番目、令和 4 年度市町村教育委員会研究協議会が 10 月 31 日から 11 月 1 日に長崎市で開催された。西日本大会ということで滋賀県から以西の各市の教育委員会の方々が参加されていた。

人口減少の中で、ふるさと教育やキャリア教育、そういったものを中心にしながらいろいろな施策、不登校対策も含めて発表がなされ、議論されたのではないかと思います。私達も負けないように有効な手立てをとっていかねばいけないなと感じた。

3 番目、小学校の体育大会が 11 月 1 日トランスコスモススタジアムで開催され、28 校の 6 年生約 1,200 人が参加した。子供たちの表情も非常に明るくて、一生懸命頑張っている姿が印象的であり、仲間や保護者から熱い声援が送られていたのではないかと思います。このような行事も今から行われていくと思うが、子供たちの活躍を祈りたい。

4 番目、中学校の連合生徒会が 10 月 26 日に市役所の大会議室で行われた。各学校の生徒会が自分たちの取り組みを発表したのだが、それを聞くと非常に様々な取り組みが各中学校で行われており、他の学校の取り組みは非常に参考になったのではないだろうか。それを持ち帰って、自分の学校でも取り組んでみるということもこれからしていくのではないかと思います。また、中学校だけに止まらず、地区全体や小学校などにも良い取り組みの輪を広げていけば、素晴らしい成果が得られるのではないかなという感じを持った。

来年度は、年に 3 回開催しているうちの 1 回を、模擬議会として議場を使って市長等に質問、提言を行うことを予定している。子供たちの発言や提案、意見が市政に反映されるのではないかと今から楽しみである。

5 番目、全国へということで駅伝の話を。昨年、男子は森山中学校、女子は西諫早中学校が県大会で優勝した。今年は 11 月 10 日、トランスコスモススタジアムの周回コースで開催され、各地区予選を勝ち抜いた 2 位までの男女 32 チームが参加した。1 位は、女子、男子どちらとも西諫早中学校であった。

女子は、途中から抜け出しどちらかというと圧勝で、男子は最後まで対馬の鶏知中学校と競りあいアンカー勝負になった。アンカーは 4 キロで、3 キロ地点まではずっと並んでいたけれど、最後の残

り1キロのところで西諫早中学校の内田君がスパートし、振り切って勝った。ものの見事な作戦勝ちという感じがする。

内田君は日頃から高校生と練習をしているという話を、西諫早中学校の保護者から聞いた。高校生と変わらないくらいの練習をしているようで、練習に裏付けられた勝利だったかなという感じがした。この後、沖縄で九州大会が、滋賀で全国大会が開かれる。活躍を期待したい。

今、高校スポーツも盛んに全国で行われているが、私立高校も含めて諫早にある高校の活躍が非常に際立っていて、「スポーツのまち諫早」を如何なく発揮している感じがする。

また、全国ということで行くと、真城小の育友会が本年度優良PTA文部科学大臣表彰に輝き、今週の金曜日、東京のホテルニューオータニで行われる表彰式に臨まれる。西海小学校とともに全国での表彰になるのだが、駅伝が2年連続男女優勝ならば、これは5年連続ですごく素晴らしいことであり、多分全国で唯一ではないかなと思う。

次に、11月7日から9日にかけて、市議会教育厚生委員会の議員と私を含めた市職員の13名が行政視察を行った。愛知県の豊田市では亡くなったときのいろいろな手続きを1か所でできる「お悔やみコーナー」を、それから、豊橋市では水道料金の検針を毎日自動的に行うことができるIoTを利用した「水道スマートメーター」を、そして、三重県の津市では3つの小学校が1つになり中学校と一緒に作られた義務教育学校で、「義務教育みさとの丘学園」の視察を行った。

義務教育みさとの丘学園は、諫早市の小長井地区あたりに非常に似ているような地区であり、過疎化が進んでいるところで義務教育学校を作られていて、非常に成果を上げられているということで良い視察であった。

義務教育の9年間で、この義務教育学校はホップが1年生から4年生まで、ステップが5、6年生、そして、後期課程でジャンプが7年生から9年生までとしており、4年生、6年生、9年生が最上級生になってリーダーシップを取れるという利点があるし、3つの区切りの中で勉強の積み残しを絶対させないということで、4年生までできちんと基礎学力をつけて、それから5、6年生でもしっかりと行っていくということであった。

また、ここは4年、2年、3年と分けていたが、普通は4年、3年、2年といくところが多い。4年、3年、2年は中学1年までを区切りとして中1ギャップをなくすということだけれど、ここは、

敢えて小学校は小学校できちんと終わらせて、1つの区切りにするということである。中学受験等を考えると、なるほどという感じもするが、中1ギャップがないのかと聞くと全くなくて、不登校生もほとんどいないということであった。

中学校の7年生になっても小学校の先生がいつもいるという安心感というか心のよりどころというか、そういうものがあるということの利点がある。それから、反対に中学校の専門教科の先生、体育とか音楽とか美術とか英語もだが、専門の先生が小学校の授業を行う。だから、そういった面では良い教育なので、義務教育学校にするとしても、あまり抵抗はないかもしれないという感じがした。

ただし、何が問題になるかという、1つの学校なので校長は1人しかいないということである。教頭は2人いて、俗にいう小学校課程、ここで言えばホップ、ステップのところに1人、中学校課程のジャンプのところに1人なのだが、校長が1人なので何かにつけて忙しい。中学校部会にも行かないといけないし、小学校部会にも行かないといけない。特に重要なものは、校長が全部判断をすることになる。ここに副校長を置くことができれば大分違うかなということで、長崎県はまだ副校長を置いている学校が少ないが、副校長という制度はある。だから、もし義務教育学校を検討するならば考えなければいけない。

それから、職員室は同じ空間にあるのだが、何もしなければどうしても小学校は小学校、中学校は中学校になってしまうので、意識的に交流するような仕掛けが必要だと思う。

また、みさとの丘学園は中学校の校舎を使って増築している。増築するといろいろな面で支障が出るので、新築ができれば、例えば、下級生となる小学校1、2年生の教室の前を中学生が通るようにして、朝から癒されて学校生活が始まるというようなこともできて良いのではないかという話をされていた。

最後に、土曜日に婦人会連合会の長崎県大会に参加した。分科会、全体の報告会、そして夜の懇親会があった。昼間は長崎県の副知事と県の教育次長が、夜は長崎県知事、長崎県教育長が参加されていた。県の教育長とは久しぶりに話をし、お互いにいろいろ施策を協力しながら実行していきましようと話が盛り上がった。以上が私の報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

連合生徒会のことで、私も自宅のケーブルテレビで娘と見ていた。

子供たちが生き生きと、また伸び伸びとしていて素晴らしいなと思った。報告の中で、来年度3回のうち1回を模擬議会として行いたいという提案だったが、これは教育長の提案なのか。

[教育長]

以前、議会の方からも提案があっており、また、他の市町もやっている。新聞を見ると活発にやっているの、これは良いことだなと思っていた。

それから、もう一つは、選挙権が20歳から18歳になった。私は高校の社会科の教員なので、非常に気になっているのが公民教育である。これが本当にできているのかなと。議会や選挙というのは民主主義の根底なので、もっと公民教育、選挙のありようを経験できる機会を作ってみてはどうかと思ったところである。

[委員]

一つお願いをしたいのだが、そこで出た中学生の意見や質問が、その後どのように市政に生かされたとかいうことを、継続的に発信してもらいたい。そうすれば、子供たちが「行動したら何かが変わるんだ」という実感が沸き、それこそ教育長が言われた公民教育の中で、まずは参加者意識を持たないと市政も県政も国も動かないと思うので、中学生のうちに感じることであればとても頼もしいのかなと思った。

市報の中にあの質問どうなったというコーナーがあったと思う。例えば、そこにあの中学生の質問はこうなりましたということを書いてもらおうと、中学生の意見もしっかりと聞いてもらえていることが分かると思うので、また来年も頑張ろうという気持ちになると思う。それと、今、中学生の生徒会も立候補する人が偏ってきていたり、なかなかいなかったりするみたいなので、そういうところも変わってくるのかなと思った。是非お願いしたい。

[学校教育課長]

模擬議会は、議会の議場を実際に使って行いたいと思っている。子供たちの質問をどういうふうに取り出して、市政にどういうふう反映していくかは、今後、しっかりと検討したいと思う。

[委員]

実を言うと、公明選挙は諫早が発祥である。高城公園に行くと碑があるのだが、旧諫早市長野村儀平さんのときに、その当時選挙が非常に乱れており、野村儀平さんが公明選挙を掲げて諫早で選挙をしようということがあり、公明選挙発祥の地となっている。

旧社会党の市川房枝さんも、その時に諫早市から公明選挙が生まれたというふうにかかれていたので、それを踏まえて教育長の後押

しではないけれども、こういう模擬選挙において、諫早は実はこちらのところだと教えることも必要なのではないか。

[委員]

三重県の津市の義務教育学校の件であるが、これは例えば諫中があって小栗、上山、諫早小学校みたいに、1つの中学校区の学校が集まってできたものなのか。

[教育長]

そのとおりである。しかし、簡単に決まったわけではなく、話があってから完成するまでに10年かかっている。初めの5年ぐらいは話があっては立ち消え、また話があっては立ち消えてみたいな、いろいろな方の思いがあってなかなか話が進まなかった。5年目にやっと1つのテーブルについて考えていこうとなって、そこから実際は5年ぐらいしかかかっていないのだけれども、その前の助走に5年ぐらいかかっている。

[委員]

そしたら、立ち上げるためには早くしないといけないということだと思う。

[教育長]

我々も水面下で動いているが、1学年に同性が1人しかいないなど、友達が少なくて寂しいという状況もあって、早く統合してほしいという空気の方が小長井地域あたりではある。一方では地域が廃れるのではないかと、祭りがなくなるのではないかとかという考えの方もいらっしゃる。そういうことは津市でもあったと言われている。

従って、廃れさせないという強い気持ちを持って、移った後の校舎の活用であるとか跡地利用も含めて考えていくことが大事である。

[委員]

先日の西日本の研修会でも義務教育学校の話があっており、デメリットよりもメリットの方が結構多いということであった。そうであれば、家庭としては通学の距離の心配などがあるだろうが、中学校区内であれば大丈夫ではないかと思う。

[教育長]

津市でも遠くから通う児童生徒もいて、そういう児童生徒には車、若しくはバスで通学できるよう市が後押しをしている。今から慎重に、しかし、石橋を叩いて何もしないと何も変わらないので、石橋を叩きながら進めていかなければいけないと思っている。

《議題》

議案第 20 号 諫早市立北諫早幼稚園の休園について

教育総務課長 説明

質問・意見なし

原案可決

その他

教育総務課長

12月定例会教育委員会の日程について説明

16時10分閉会